



# 「子供が生まれたら犬を飼いなさい」

私立滝川第二中学校 三年 大岩 あおば

私は以前、「子供が生まれたら犬を飼いなさい」という詩を、耳にしました。これはイギリスの詩です。「子供が生まれたら犬を飼いなさい。子供が赤ん坊の時、子供の良き守り相手になるでしょう。子供が幼少期の時、子供の良き遊び相手となるでしょう。子供が少年期の時、子供の良き理解者になるでしょう。そして子供が青年になった時、自らの死をもつて子供に命の尊さを教えるでしょう。」という内容です。私にはとてもイタズラ好きだけど、とても家族思いなお兄ちゃんがいました。今でもお兄ちゃんは大切な存在です。そのお兄ちゃんは、テンといいます。

私がまだ赤ちゃんだった頃、テンはずっと私の隣にいてくれたそうです。一緒にお昼寝をしたり、遊んでいる時も近くで見守ってくれていたりと、ご飯を食べている時は机の下で食べ物が落ちてくるのを待っていたそうです。

私が幼少期の時は、よく一緒にイタズラをしていたそうです。三連休を目前に控えた木曜日。私は小学五年生でした。家に帰ると、いつも尻尾を振って迎えてくれるテンちゃんが寝ていました。悪い予感がしたものの、その日は帰ってすぐにご飯を食べていないようでした。悪い予感は家族全員に伝染し次の日に病院へ行きました。結果の数値は見たことない程に悪く、私達は察しました。「お別れだ。」と。そこから一日、家族四入水入らずで過ごしました。そして十月十日の朝みんなに見送られ、テンちゃんは死にました。私は大切な存在を失ったのは初めてでした。テンちゃんは抜け殻みたいで冷たいのに穏やかで温かかったです。私は泣きながら空にむかって、「今までありがとう。」

と何回も叫びました。テンちゃんは自分の命で命の尊さと命を失う悲しさを教えてくれました。

私にとつての命は「この世で一番重い責任」だと思います。一番最初に「子供が生まれたら犬を飼いなさい」という詩を書きましたが、私は今のところ犬は飼いたくないし子供もほしくありません。なぜなら一つの命を育てる責任をとれる自信がないからです。命を育てられる余裕もない人がペットを飼っ

一緒に犬小屋に入ってドッグフードを食べていた時であれば、一緒にお母さんのパソコンのキーボードを壊したこともあったそうです。イタズラ好きのテンちゃんの元で育った私も同じくらいイタズラ好きになっていました。

私が小学生になった頃にはテンちゃんも年をとつて、イタズラも減り、寝ていることが多くなりました。私が勉強していると足元で寝ていてくれました。たまに寝転がりながら宿題をしていると教科書の上で寝てしまった時もありました。高学年になると中学受験の勉強のことで親と喧嘩することが増えました。しかし、そんな時でも隣で寄り添って寝ていてくれました。今思えば、とても心強い存在でした。テンちゃんは親よりも私の味方だと思っていました。この頃からテンちゃんは健康診断での数値が悪くなりだし、毎日薬を飲んで、病院に行く回数も増えました。

私は受験勉強のことに頭がいっぱいでテンちゃんが死ぬ、とたり子供を産んだりして、責任がとれなくなり捨てるといふニュースをたくさん見ます。私は絶対そんなことはしません。テンという最高のお兄ちゃんが教えてくれたからです。これからもテンちゃんに感謝し、一つ一つの命に責任を持つていきます。

## 講評

イタズラ好きで家族思いのお兄ちゃん。犬のテンを、愛情を込めてそう呼ぶ。赤ちゃんの頃からいつも隣にいたが、徐々に体が弱り、死んでしまう。テンとの穏やかな生活や悲しい別れが克明に記され、亡くなったテンを「冷たいのに穏やかで温か」とする表現力はすばらしい。ペットを飼うことや子どもを産むことについて、「今は責任をとれる自信がない」と、「いのち」に対する責任の重みを真摯に考えている。冒頭の詩の引用から結論まで筋道が明快である。